

世界を舞台に活躍するヴァイオリニスト

# 竹澤恭子

KYOKO TAKEZAWA

J.S.Bach Complete Sonatas & Partitas for Solo Violin



## J.S. バッハ無伴奏ヴァイオリン ソナタ&パルティータ全曲演奏会

祈りと魂とともにー受け継がれるバッハの響き

第1回

壮大なフーガ

4/26 日

2026.

ソナタ第1番 ト短調 BWV1001

Sonata No.1 in G minor, BWV1001

パルティータ第1番 ロ短調 BWV1002

Partita No.1 in B minor, BWV1002

ソナタ第2番 イ短調 BWV1003

Sonata No.2 in A minor, BWV1003

第2回

シャコンヌへの旅

5/10 日

2026.

パルティータ第3番 ホ長調 BWV1006

Partita No.3 in E major, BWV1006

ソナタ第3番 ハ長調 BWV1005

Sonata No.3 in C major, BWV1005

パルティータ第2番 ニ短調 BWV1004

Partita No.2 in D minor, BWV1004

©松永学

各日 2:00PM開演 (1:30PM開場)

兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール

各回 A¥4,000 B¥3,000 (税込/全席指定)

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22阪急西宮北口駅南改札口スグ/JR西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)

一般発売  
1/18 日

芸術文化センター  
チケットオフィス

0798-68-0255

(10:00AM - 5:00PM 月曜休み ※祝日の場合翌日)

インターネット予約

https://www.gcenter-hyogo.jp

※窓口での販売(残席がある場合)は1/20(火)より

芸術文化センター会員  
先行予約受付開始

1/17 土

※未就学児童はご入場いただけません。  
※やむを得ない事情により、曲目等が変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。  
主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター



兵庫県立  
芸術文化センター



# “世界のKYOKO TAKEZAWA”が挑む バッハ無伴奏への旅

1986年、ジュリアード音楽院留学中にインディアナポリス国際ヴァイオリン・コンクールで圧倒的な優勝を飾り、世界の舞台へ。アメリカでの生活を経て2019年までパリに拠点を置き、世界各地のリサイタルやオーケストラとの共演に招かれるなど国際的に活躍を続けておられる竹澤恭子さん。23年にはデビューから35周年を迎え、その確かな技巧と豊かな音楽表現は、各地で喝采を浴びています。

これまで芸術文化センターでは、室内楽、PACオーケストラとの共演でも素晴らしい演奏を聴かせてくれました。リサイタルは21年のKOBELCO大ホール以来の登場となります。今回選ばれたのは、「技術的にも音楽的にも精神的にも極めて高い壁を伴う挑戦」と語る、バッハ無伴奏ヴァイオリン・ソナタとパルティータの全曲演奏。2回に分けてお届けします。

幼い頃から身近だったというバッハの音楽に、世界の第一線でキャリアを積み重ねてきた竹澤さんが今、全身全霊をかけて挑みます。舞台上にはただ一人。静謐な空間が永遠なるバッハの音楽に満たされる、孤高の無伴奏リサイタル。一瞬たりとも聴き逃すことなく、見届けてください。



## 「祈りと魂とともに～ バッハ無伴奏への旅」

バッハと向き合うこと。それは私自身の音楽人生と向き合うことでもあると感じています。幼い頃からバッハは私にとって身近な存在で、チェリストのパブロ・カザルスによる《無伴奏チェロ組曲》は幼い頃から私にとって特別な音楽でした。

音楽家としてのキャリアを積むうちに、私は次第にバッハの音楽の世界観の大きさを実感するようになり、多くの作曲家がバッハから深い影響を受けている事実も自然と腑に落ちました。偉大なバッハの音楽と向き合うことがどれほど大変で重いものであるか感じれば感じるほど、「自分にバッハに向き合う力があるのか？」と自分の未熟さを痛感してきました。けれども多くの音楽経験を経て、そしてヴァイオリンに限らず多種多様な多彩なバッハの演奏に触れるうち、自分自身の心に響くバッハ像が少しずつ見え始めてきました。

《無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ》に取り組むことは、技術的にも音楽的にも精神的にも極めて高い壁を伴う挑戦で、その音楽を構成するすべてに対する覚悟と深い洞察が求められます。自分の中に培ってきた音楽と人生の経験すべてを注ぎ込み、私の人生観が映し出されるようなバッハを皆様にお届けしたい、と願っています。それは、幼い私がかザルスのバッハから受け取った魂の声と祈りの心が、いまも私の中で根を張り生き続けているからにほかなりません。永遠なるバッハの音楽には、人と人との心をつなぐ力があると、私は信じています。

竹澤恭子

## 竹澤恭子 (ヴァイオリン)

桐朋女子高校音楽科在学中に第51回日本音楽コンクール第1位、1986年第2回インディアナポリス国際ヴァイオリン・コンクールで圧倒的な優勝を飾る。

これまで、ニューヨーク・フィル、ポストン響、ロンドン響、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管、ロイヤル・コンサートヘボウ管等と、また、マズア、メータ、デュトワ、小澤征爾他、多くの名指揮者と共演。

フィルハーモニア管のスペインツアー、ハンブルク北ドイツ放送響の日本ツアー、東京フィル100周年記念ワールドツアーのソリストに招かれた。

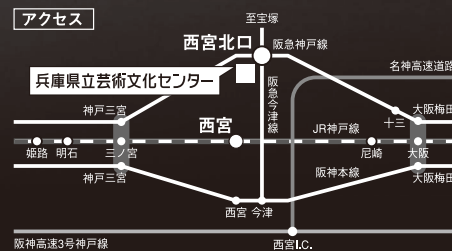
また、教育活動も力を注ぎ、国際コンクールの審査員

も数多く務める。また、アスペン、ルツェルンといった世界的な音楽祭にも出演を重ね、最近ではセイジ・オザワ松本フェスティバル、別府アルゲリッチ音楽祭へも参加。

1993年出光音楽賞、1999年度愛知県芸術文化選奨文化賞、2021年大府市民栄誉賞、2025年第78回中日文化賞を受賞。

使用楽器は、1724年製アントニオ・ストラディヴァリウス。

現在、東京音楽大学教授、桐朋学園大学特任教授、洗足学園音楽大学客員教授。



◎ 阪急 西宮北口駅 南改札口 スグ (連絡デッキで直結)  
◎ JR 西宮駅より徒歩15分 (阪急バス7分)  
※ご来場は、電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。